

小学生用

人 権 啓 発 資 料

ファミリー  
ふれあい



宮崎県教育委員会



宮崎県「いのちを大切に育てる教育」



# はじめに

「あなたの家庭にもっと望むことがありますか」と子どもたちに聞いてみたところ、どの世代の子どもでも一番多かった答えは、「家族のみんなで楽しく過ごしたい」ということでした。

このことは、子どもの権利として、親が子どもたちに保障しなければならないことです。

しかしながら、最近、児童を虐待する親の増加や友達とのいさかいから命を奪われるなどといった深刻な問題も生じています。

子どもと親の語りあひのある家庭環境づくりが、一層求められるようになっていく中、親と子が共に学び合える資料として、この人権啓発資料を作成しました。

この資料は、「生命の尊重」「人格の尊重」「人権意識の高揚」「人間愛」「基本的な生活習慣」の五つのテーマに基づき構成しています。人権問題についてできるだけ身近な問題を取り上げ、家庭でも話題にしやすくなるように心がけました。

家庭は、生命の重さやかけがえのなさを学ぶなど、人間尊重の精神を培い、人権感覚を身に付ける場でもあります。子どもは、親から愛されていることを感じてこそ、親の教えが心にしみていきます。褒める時も、叱る時も、その他いろいろな場面で、親が、子どもをしっかり抱きしめ、深い愛情をもって受け止めて、人間尊重の精神に満ちあふれた、心豊かな子どもに育てていただくことを願っています。

## いのちを大切に

ふ な

ふなが しんで いました。

おなかを うえに して

うかんで いました。

めは、しょんぼり していました。

くちが しまって いました。

あと ニひき いきて います。

「なかよく してくれて ありがとう。」

と いった しんだと おもいます。

なみだは、

水に とけたと おもいます。

おはかを つくって

うめました。





今、改めて私たちに求められることは、生命のかけがえのなさに気づき、生命あるものを慈しみ、畏れ、敬い、尊ぶことです。

ここでいう生命とは、人間のみではなく、動植物など全ての生命を含んでいます。命あるもの全てに対する感謝の心や思いやりの心を子どもたちに育てていくことが、命に関わる問題やいじめの問題などを考えるとき、大変重要になります。

左の詩は、死んでいったふなの様子を細かに見つめています。それだけに、これまでに大事に飼ってきたふなへの愛情とそれを亡くした寂しさが胸に迫ってきます。

「なかよく してくれて ありがとう。」と、仲間に別れを告げて死んでいったと思う子どもの心もまた、悲しみでいっぱいになっています。

子どもは、生きものに興味を示し、自分で飼いたがるものです。大事に育ててきたものが、怪我をしたり病気になったりすると心配し、それまで以上に一生懸命世話をします。

日頃から愛情を注いできたものの死を目の当たりにすることは、辛く悲しいものです。

しかし、そうした経験を積み重ねることによって、子どもたちはかけがえのない生命の尊さをより深く実感するようになります。

家庭においては、身近な自然の中での遊びや、動植物の飼育栽培などの経験を通して、生命の尊さを実感させましょう。また、事件や事故などで亡くなった人の家族や傷付けられた人の気持ちを思いやり、その悲しみがどんなに深いものか生命の大切さについて話し合ってみましょう。

## 一人一人の個性を大切に



まあくん ごめんね

ぼくと まあくんは とても なかよし

このまえ まあくんと けんかした

ぼくは メガネを かけている まあくんに

「メガネざる」と いった

まあくんが とても さびしそうな かおを していた

ぼくは こころが ドキッと した

せんせいが

「ともだちの こころを たいせつに しようね」

と はなして いたのを おもいだした

ぼくは こころが ズキンと いたくなった

まあくん ごめんね

ほんとうに ごめんね

## 保護者の皆様へ

人格の尊重

自我の芽生えた子どもたちが集団で生活すれば、意見の対立やけんかが起こりがちです。そんなとき、子どもは容姿などに対して、相手の気持ちを傷付けるような言葉を口にすることがあります。

しかし、どんなに感情的になっているときでも、使ってはならない言葉があるのです。

左の生活文では、「メガネぎる」と言ってしまったぼくが、まあくんのさびしそうな表情に気付き、「ともだちの ころを たいせつに しようね」という先生の日頃からの言葉に、「ころが ズキンと いたくなつた」「まあくん ごめんね ほんとうに ごめんね」と素直に反省し、相手の身になって考え、友だちの気持ちを理解しようとしています。

人には、それぞれ個性があります。長所や短所もあります。人が、お互いの人格を尊重していくためには、短所だけを指摘するのではなく、お互いがもっている良さや可能性に目を向け、それを認め合っていく態度を身に付けることが大切です。

また、障がいのある人に対しても、障がいを正しく理解することにより、一人一人の違いを個性として捉え、互いを認め合い、共に生きる人間関係づくりが必要です。



## 思いやりの気持ちを育てるために

まさみさんへ

いつも、おちゃわんふきの お手つだいを してくれて ありがとう。

さいきんは、とても じょうずに できるようになりましたね。9人ぶんの おちゃわん、おさら、はし、コップ、それに 6人ぶんの おべんとうばこを ふくのは、とても たいへんでしょう。だけど、いつも がんばって いっしょうけんめい やって くれてますね。かぞくみんな、とても たすかって います。かんしゃして いますよ。ありがとう、ありがとう。

おとうさん、おかあさん、おねえちゃんたちより

おかあさんへ

おかあさん、お手がみ ありがとう。これからも ちゃわんふき するからね。おかあさんは、よるまで べんきょうして つかれるでしょう。つかれたら、いって くださいね。かたを たたいて あげる からね。それから りょうりの 手つだいも するからね。がんばって するからね。

まさみより



子どもは好奇心が旺盛で、様々なことに興味をもち、自らやってみようとしめます。そのとき、子どもの進む先の障害物を先回りして取り除いたり(過保護)、あれこれ指示をしたり(過干渉)するのではなく、できるだけ子どもの力を信頼し、子どもがすることを見守り、励まし続けましょう。

日常生活の中で、「ありがとう」「うれしいよ」「それはつらいね」「かなしいね」など、何気なくかける親の共感的な言葉や態度が子どもの優しい気持ちを育てます。

また、私たち親が、子どもの気持ちを受け止め、時には、しっかり抱きしめてあげることが、子どもの思いやりの気持ちを育てることにつながります。

左のページの手紙文のように、「ありがとう」「とてもじょうずにできるようになりましたね」などの、感謝の言葉や自分を認めてくれる言葉をもらった子どもは、その言葉や相手を受け入れるとともに、自分に自信をもつことができます。そして、家族の温かい愛情が子どもの自己肯定感を高め、次の行動への意欲につながるのです。

子どもは、親の姿を見て育つものです。親が家族に対してはもちろん、家族以外の人たちにも思いやりの心をもって接するようにならしましょう。



## ともに生きる社会をめざして

よしこさんへ

よしこさん、みんなと いっしょに なかよく  
あそびたいのに、いじわるされて  
いやだった でしょう。

わたしも、クラスの  
おとこのこから、あたまを  
たたかれて いやでした。



もう、がっこうなんか いきたくないとおもった  
けど、ともだちが やさしく なぐさめてくれたし、  
たたいた おとこのこも

「ごめんね。」

と 言って くれたから、わたしは、いやな  
きもちも なくなって いったよ。

また、こんど こんなふうにいじわるされたら、  
みんな なかよく しなきやいけないと おしえて、  
いい がっきゅうに しようね。よしこさん。

## 保護者の皆様へ

人間愛

子どもは、友達との交わりを通して、仲良くすることの大切さを身に付けていきます。

友達からいじわるをされ、「もう、がっこうなんかいきたくない」と思っていたのに、友達のなぐさめや「ごめんね。」の一言で、嫌な気持ちがなくなっていきます。

このような体験によって、人を思いやることの大切さに気付いていきます。「こんどこんなふうにいじわるされたら、みんななかよくしなきゃいけないとおしえて、いいがっきゅうにしようね。よしこさん。」

自分の体験をつづったこの優しさと励ましが、いじめられた子どもにとっては大きな勇気付けになります。

子どもは、遊びや様々な体験を通して、いろいろな立場や主張があることを知り、仲良くしていくことの大切さを学んでいくのです。

子どもたちはこんな友達がそばにいてくれたらと思っているのではないのでしょうか。

私の話をじっと聞いてくれる友達がいたら。  
私のために涙をながしてくれる友達がいたら。  
「あなたは、そんな人じゃない。あなたは絶対に変わることができる。」と、私のことを信じ続けてくれる友達がいたら。  
「自分のペースで走ればいいんだよ。」と、温かく見守り続けてくれる友達がいたら。  
明るいはじけるほどの笑顔と、「おはよう」というさわやかな挨拶をしてくれる友達がいたら。

こんな友達が自分の周りにいたら、毎日、学校に行きたくくなります。学校生活も楽しくなります。

子どもたちは、それぞれ、自立した人格をもった人間です。だからこそ、お互いのふれあいの中から、理解しようとしているのです。

子どもたちが、共に手を取り合って生きていける、みんなが生きていて良かったと思える社会を目指して、家庭でも「共に生きる社会の実現」のためにどんなことができるか話し合ってみましょう。



## 温かい人間関係を育てるために

### あいさつ

ぼくの うちでは、あいさつを よく します。

あさは、「おはようございます。」

がっこうへ いくときは、「行ってきます。」

かえったら、「ただいま。」 ねるときは、

「おやすみなさい。」と います。

もし、いわなかったら ちゅういされます。

じょうずに いえると ほめて くれます。

にゆうがくして せんせいに ほめられました。

あいさつすると とても きもちが いいです。



「人間は好きな人、尊敬する人から学ぶようにプログラミングされている。」  
これは、動物行動学者のコンラート・ローレンツの言葉です。

子どもたちは、スポンジが水を吸収するように、一番身近な存在である親の生き方を自然に学び、身に付けていきます。

人への挨拶や応対の様子は、そのまま子どもにとっての手本となります。他者への思いやりのある言葉や態度、我が子への愛情あふれる厳しさと優しさにふれながら、子どもたちは育っていくのです。

子どもの気持ちや考えも大切にしながら、親としての信念に基づいて一貫性のあるしつけをしっかりと行うことが必要です。

そのためにも、家庭での約束事やルールを設け、大切にすることで子どもたちの生活習慣を高め、豊かな人間関係を築く力をしっかりと身に付けさせましょう。

また、子どもたちに家庭の外の約束事やルールを経験させることも大切です。

子どもたちは、年齢差に関係なく遊びなどを通して様々なことを学んで育ちます。そして、お互いに学び合い、教え合う関係をもつようになります。その中から、人と人との関係を豊かに結ぶために欠かせないルールや知恵を身に付けたり、社会的な人間関係やコミュニケーションの能力を獲得することになるのです。

お互いを思いやる心の働きは、人と人との関わりなくして育つことはありません。子どもの頃からその態度や行動の基礎となる基本的な生活習慣を身に付ける環境をつくるようにしましょう。





ファミリーふれあいをよんで…

まいにちを たのしく げんきにすごしたり、  
みんなと なかよく すごしたり するために、  
どんなことに とりくんで いくと よいで  
しょうか？

おうちの 人と いっしょに かんがえて、  
かいて みましよう。



## 監 修

宮 崎 県 教 育 委 員 会

〔絵〕宮崎県立宮崎大宮高等学校  
(美術部／卒業生)

青木 真梨、工藤 恭子  
章 散華、田代 紘美  
中原 涼子、満元 沙織  
山田 宰栄、吉野 入江

---

## 人 権 啓 発 資 料

「ファミリーふれあい(小学生用)」

発 行 平成16年10月  
改 訂 令和5年10月  
発 行 所 宮崎県教育委員会  
編集責任者 永井 敬雄(人権同和教育課長)

---

印 刷 所 宮崎県印刷事業協同組合



思いやりの心で  
豊かな人間関係を

